

2017年（平成29年） 6月 25日 日曜日（赤口）

日刊工業新聞

総合ガイド

会員登録／ログ

ニュース		動画		特集・連載		マイページ		MF-Tokyo特集		記事	
機械	ロボット	ICT	エレクトロニクス	自動車・輸送機	化学・金属・繊維	環境・エネルギー	医療・健康・食品	建設・住宅・生活			
商社・流通・サービス		政治・経済	金融・商況	地域経済	中小・ベンチャー	科学技術・大学	人物	オピニオン	トピックス	新製品	その他
友の会	特集・広告	人事・機構改革	マイニュース	マイクリップ							

トップ > 科学技術・大学ニュース > 記事詳細

小 中 大

[科学技術・大学] 🔍 山梨大学 慶応義塾大学

山梨大、脳機能修復の関与細胞を発見 脳卒中の予後・治療に期待

(2017/6/23 05:00)

ツイート

シェア 16

LINEで送る

貪食性アストロサイトのイメージ

脳梗塞で傷害を受けるとアストロサイトが貪食性を獲得。貪食性アストロサイトではARCA1などの分子が共役して細胞断片を取り込む
(山梨大学の資料を基に作成)

山梨大学医学部薬理学講座の小泉修一教授と慶応義塾大学医学部の岡野栄之教授らは、脳卒中が起きた後の脳組織の修復に関わる細胞を発見した。脳に栄養を供給するなどの機能を持つ神経細胞「アストロサイト」が、脳卒中のダメージを受けて死んだ細胞を食べる能力「貪食性」を獲得し、脳から除去していた。マウスの実験で明らかになった。脳梗塞の予後やリハビリのプログラム開発に役立つ。

脳梗塞やくも膜下出血などの脳血管傷害は国内患者数が120万人と多く、脳の血流が滞ることによる片まひなどの重篤な後遺症が問題となっている。

研究チームが、脳卒中モデルのマウスでアストロサイトを観察すると、脳梗塞後にアストロサイトが「貪食性アストロサイト」に変化し、ダメージを受けた細胞を除去していることが分かった。生理学研究所、新潟大学、群馬大学との共同研究。成果は22日、英電子科学誌ネイチャー・コミュニケーションズに掲載された。

(2017/6/23 05:00)

新聞購読を申し込む 電子版を申し込む

共に、挑む。
課題解決の
戦略ブレンヘ。

詳しくはこちら

Swagelok

ようこそ、ゲストさん

[会員登録／ログイン]

総合ガイド アイコンについて

電子版有料購読の申し込み（月額：4,000円＋税）

電子版無料会員登録（一部機能をご利用いただけます）

電子版からのお知らせ

日刊工業新聞社からのお知らせ

カレンダーから探す

5月 2017年06月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

閲覧ランキング	今日	今
1位:	名大、博士学生をフルタイム雇用 －年俸300万円	
2位:	【電子版】ケーブル無しで縦横移 できるエレベーター、高層ビルに 導入へー独ディッセンクルップ（ 画あり）	
3位:	ドコモ、スマホ長期利用者にポイ ト優遇 新プラン導入検討	

- [PR] 7/20大阪セミナー開催！岡山県の立地優位性を発信（参加無料）
- [PR] 沖縄県企業誘致セミナー7/20大阪7/21東京開催！＜参加無料＞
- [PR] 【参加無料】新技術説明会★7～8月開催「製造技術・慶應大・産総研ほか」

ツイート シェア 16 LINEで送る マイクリップ登録する 記事を利用する

あわせて読みたい

現場業務のデジタルライゼーションを支援する統合資産管理サービス「金型管理モデル」編【日立システムズ／PR】現場業務のデジタルライゼーションを支援する統合資産管理サービス「金型管理モデル」編【日立システムズ／PR】

現場業務のデジタルライゼーションを支援する統合資産管理サービス「工場付帯設備管理モデル」編【日立システムズ／PR】